

令和2年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	42	学校名	県立鹿島高等学校			課程	全日制・普通科			学校長名	小沼浩幸							
教頭名	五十野 誠（高校），園部 晃嗣（附属中）								事務長名	根本和芳								
教職員数	教諭	48	養護教諭	1	実習教諭	1	常勤講師	4	非常勤講師	4	指導員	1	事務職員	4	技術職員等	4	計	67
生徒数	小学科	1年		2年		3年		附属中1年		合計		合 ク ラ ス 数						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							
829	普通科	126	105	140	141	127	150	20	20	413	416	21						

2 目指す学校像

- ◇ 道義と秩序を重んじ、自己に責任を持つ自主・自律生活の実践を図る学校
- ◇ 学問尊重と真理を求める気風の育成を図る学校
- ◇ 自他の敬愛と協力による豊かで快活な生活態度の樹立を図る学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	自らの意志で主体的に学ぼうとする生徒がいる反面、基礎学力の定着や学習意欲が不十分な生徒もいて、学力や学習意欲に差が見られる。	基礎学力の定着や主体的な学習態度の育成に向け、アクティブ・ラーニングの視点から「わかる授業」を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の推進し、「総合的な探求の時間」の充実に努める。
進路指導	生徒の進路希望が多種多様化している中、大学進学への意欲が高揚化する一方で、自身の進路研究の意識不足から、進路の決定時期に遅れが生じがちである。また、早期に進路決定したいという焦りからか、安易な進路選択に陥るケースも少なくない。国公立大学進学を第一志望とする者の達成率は低い。就職については、高校求人倍率が高水準の中、最終内定率は100%であった。	進路実現に向け、キャリア教育の充実を図り、組織的、計画的及び継続的な進路指導を通して、生徒の進路実現を推進する。

生徒指導	<p>生徒は、おおむね規範意識及び基本的生活習慣が確立されている。特別な理由のある生徒以外に、怠学的な欠席・遅刻・早退をする生徒は殆どいない。容姿面における指導では、頭髪の色や型において指導される生徒は若干名であり、女子制服のスカート丈については規定に反している生徒はほぼいない。女子ソックスについても規程違反の生徒数も減少傾向にある。</p> <p>交通面において、登下校時の自転車の運転マナーの悪さが外部から指摘されていたが、おおむね改善されている。しかし、自転車乗車中の車との接触事故が思いの外発生していることから、交通事故への危機意識の低さが伺える。</p>	<p>職員の共通理解・行動により学年の枠を超えて指導体制を構築することで、生徒の規範意識の確立を図る。また、個に応じて適切な連携指導体勢を構築する。</p> <p>自転車乗車中と車の接触事故防止のため、継続した指導を行う。また、加害者になり得ることを想定し、損害賠償保険加入を推奨する必要がある。</p>
特別活動	<p>学校行事においては、生徒会が主体的に企画・運営していることから、生徒が自ら積極的に参加し盛況に実施されている。ホームルーム活動については、時間的な制約もあり、計画通りの運営に困難を来すことがある。部活動も盛んであり、今後更なる活性化が望まれる。ボランティア活動では多くの生徒が積極的に参加しており、地域から高い評価を得ている。本校生の活動が地域社会に浸透し貢献できるように、更なる働きかけと活動に拍車をかけていきたい。</p>	<p>ホームルームの時間の確保及び生徒による主体的な企画・運営と、キャリアパスポートを活用した内容の充実を図る。文化祭等の学校行事を生徒主体で企画・運営できるよう支援する。部活動の活性化への取組に併せ、ボランティア活動への意欲を高める指導工夫も必要である。また、各行事において、中・高が連携をとり、新しい形を構築。</p>
渉外	<p>学校の教育活動を含む全般に対する保護者からの関心が高く、PTA活動は活発である。年2回、全学年同時に保護者面談を実施するが、参加率は100%の数値を維持している。その他、進路説明会や学校公開事業等により、保護者が学校を訪れる機会も増えている。だがPTA総会における参加率がまだまだ低い。創立110周年を迎え学校、保護者、同窓会が互いに協力して、よりよい学校運営ができるように努力したい。</p>	<p>生徒の学校における生活状況等の情報を保護者に提供し、共通理解を図るとともに、学校と保護者が連携しやすい体制を作る。</p>
学習研究・図書視聴覚	<p>これまでの各学年における進路学習指導は、主に総括役の進学クラスの担任が一人で担当していた。学科改編に伴い、彼らが行っていた仕事を校務分掌や学年のメンバーに分散化・明確化することでより一層の効果を上げることが求められる。特に今まで学年主導で行っていた小論文・探求的な学習を効果的に進めていけるような体制作りが求められる。国語科を軸とした小論文指導計画の作成に始まり、次に担任を対象とした小論文の書き方説明会や志望理由書の書き方説明会や探究活動についての教員研修実施などの参加を促し、個人のスキルアップを、そして学校全体のスキルアップを考えていきたい。</p>	<p>今まで図書視聴覚部に学習指導が加わり、仕事の内容は多岐にわたっている。まず、図書部/視聴覚部は来年度1～2名の少人数枠で運営できるように今からそれぞれのスキルアップを図らなければならない。一方、学習研究部では、年間計画を明示し、保護者や生徒が学習の意義を理解し、より高いモチベーションを持って学習に望めるよう工夫していく。特に、小論文・探求的な学習の指導に当たっては国語科の協力を得てしっかりした体制作りが必要となる。視聴覚部では、体育館の放送設備や配線の老朽化が著しいため、根本的な改善が必要である。</p>
保健安全衛生	<p>校舎内外の清掃・美化活動については、外来者から高い評価を得ている。しかし、一部の生徒に生活環境へのマナーを含む美化意識の欠如が見られ、更なる清掃の徹底を指導している。</p> <p>年2回の避難訓練では、全員が災害時に備えて避難経路を確認すると共に、</p>	<p>学習環境の整備と環境美化意識を高めるために、日々の清掃を徹底する。</p> <p>避難訓練においては、出火元がどこなのかを放送を聞いて確認し、安全にそし</p>

	<p>安全の確保の仕方を身につける。 前年度、教育相談室においてカウンセリングを受けた生徒数は、延べ人数61名だった。人間関係等で悩みを抱える生徒が最も多かった。コミュニケーション能力に問題が見受けられ、最近では、特に自閉症スペクトラム（ADHD・高機能自閉症等）の疑いのある生徒が増えている。今後、早期発見及び対応が望まれる。 また、校内研修（年間1回）、SCによる教育相談部の教員や担任、保護者との面談等を通して生徒の困り事、対処の仕方についてアドバイスを頂くことができた。</p>	<p>て迅速に避難する意識を高めさせる指導をする。 問題を抱えた生徒の早期発見に心掛ける。 個々の生徒や保護者に対して共感的・多面的な理解を図る。また、生徒情報の共有化を重視し、教員間の共通理解を図る。</p>
<p>情報政策管理</p>	<p>成績管理においては、選択科目が多いことから科目担当者と選択生徒の登録に時間を要す。そのため、改善・工夫の余地がある。ホームページにおいては、十分な活用がされていない。様々な情報を定期的に更新できるよう、他の先生方の協力を得ながらおこなっていく必要がある。また、39メールにおいては、全校生徒と保護者に対して登録を強く呼びかけ、情報が届くようにする。きんむくにおいては、働き方改革の観点からシステムが導入された経緯があり、出勤時と退勤時における作業を全職員に遂行してもらえるよう呼びかけ等する。</p>	<p>成績処理では、評定や欠課時数など誤りがないように努める。タイムリーな情報発信に努めるとともに、より分かりやすいホームページとなるよう工夫する。39メールを活用し、必要な情報を生徒や保護者に伝えていく。きんむくを活用し、働き方改革を図る。</p>
<p>広報広聴</p>	<p>前年度は、分掌として独立しておらず、学校説明会は教務部、学校公開は教務部と渉外部で担当していた。昨年度は、附属中学校の開校準備と相まって、スクールガイドや学校クリアファイルの刷新等が行われた。学校全体として、広報広聴活動を改革、革新する良い機会である。</p>	<p>広報活動には、学校の情報を生徒や保護者など、いわば内部向けと、地域や報道機関など、いわば外部向けの2つがある。少子化の影響で、生徒数が定員割れする中、特に小・中学校向けの広報活動に力を入れる必要がある。そのために今年度は新たに学校紹介ポスターを製作しPRを強化する。</p>
<p>タスクフォース （学校組織運営の見直し）</p>	<p>令和元年10月に実施した勤務実態調査結果から、教職員の一部に業務が集中し長時間の時間外労働が常態化していることが分かった。（月の時間外労働時間が45時間超の職員数は全体の57.4%、うち月90時間超の職員もいた。） 今年度見直す事項については、1）業務改善に係るWG「タスクフォース」の設立。2）必ずしも教員が担う必要のない業務の削減・外部へ委託。3）教員が担うべき業務であるが削減・縮小が必要な業務の洗い出し。4）校務分掌・クラス単位での副部長及び副担任業務の明確化等を実施していく。</p>	<p>業務分担の平準化を目指し、組織及び業務内容の見直しを積極的に行うことを推進していくが、校内の人事配置、行事等における前例踏襲の慣習、一人の教員が数役を担う現実からの打開策の検討に併せ、大規模な組織改組実現が課題である。</p>

4 中期的目標

- 1 生徒の自主的活動を支援し、自分たちの学校を自分たちで築いていくという気概を持たせる。
- 2 学校行事等への積極的な参加を促すとともにキャリアパスポートを活用し、学校生活を豊かに送れるようにする。
- 3 生徒が意欲を持って学習に取り組めるよう生徒の意識調査等を行い、学習に対する相談や進路相談活動の充実を図る。
- 4 生徒の体力の向上を図るため、継続的な事業を計画立案し、実施する。
- 5 国公立大学等への合格者数を増やすため、目的意識を明確にしつつ、学習努力を継続するための支援をする。
- 6 教員のワークライフバランスの見直しと、働きやすい職場環境の構築を図る。

5 本年度の重点目標(努力目標)

重点項目	重点目標
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 教科指導の充実を図り、基礎学力の向上に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ア 指導体制の充実と授業時間の確保 イ アクティブラーニングを取り入れた指導方法の改善と工夫 ウ 自学自習と学習活動の習慣化 ◇ 授業第一主義 <ul style="list-style-type: none"> ア 予習をして授業に臨み、復習をして学力を身に付けさせる鹿島スタイルの浸透
進路指導の充実 (生徒の希望や目標を実現できる学校)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 進路指導の強化 <ul style="list-style-type: none"> ア 個人面談等を繰り返し行い、進学目標の早期明確化と、その目標実現に向け、効果的・継続的に取り組む。 ◇ 就職指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ア 資格取得の奨励や望ましい職業観・勤労観の育成を推進する。
基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 秩序を重んじ、自ら律する心や他人を思いやる心の育成に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ア 人権尊重(偏見・差別をなくす) イ 規律の遵守 ◇ 健康や安全意識の高揚と、交通安全・防災教育の充実を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ア 交通安全教育の充実 イ 防災教育の充実 ウ AED講習会及び性教育の推進 エ 薬物乱用防止教育の推進
特別活動の振興	<ul style="list-style-type: none"> ◇ ホームルーム・生徒会活動の活性化を図るため、キャリアパスポートを活用する。 ◇ 部活動を奨励し、心身の健康の維持・増進に努める。 <ul style="list-style-type: none"> ア 施設設備の効率的利用 イ 他校・地域の行事やボランティア活動の理解と参加
組織運営の体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 業務改善を図るタスクフォースの設置 <ul style="list-style-type: none"> ア 必ずしも教員が担うべき業務であるが削減や縮小の必要な業務の見直し イ 必ずしも教員が担うべき必要のない業務への対応 ウ 校務分掌・学年等の組織内業務平準化への見直し ◇ 職場環境整備の推進
健康 ^{あいあい} 【和気藹々】 報・連・相	

